第６学年　学級活動（交通安全）　　　　　　　　　　　　　　　場所：６年１組教室

自転車に乗ることの危険性と責任

指導者　　八木　智美

**１　目標**

　・自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全な乗車ができるようにする。

**２　新学習指導要領との関連【学級活動】**学級活動(２)－ウ

　ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

　　現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

**３　単元について**

　　本学級の多くの児童は、普段からよく自転車を利用している。本校ではすべての児童が３年生になると交通安全教室で自転車の安全な乗り方について学習し、世田谷区役所交通安全自転車課より自転車免許証を交付されている。また、自転車シミュレータ教室で実際に体験学習を行うことで、「自転車は歩道を走るときには道路側を走ること」や「交差点での一時停止、後方確認」など、理解しているつもりでも実際にはできていないことがあることについても学んでいる。さらに、日常の安全指導においても、定期的に安全な自転車の乗り方を確認している。このような取組により、今年度は昨年度と比べて児童の自転車事故の件数は減少した。

　　しかし、実態調査アンケートによると、事故にまでは至らずとも危うい経験をしている児童は少なくないことが分かる。また、これまでの取組により、児童に自転車乗車時に自分が危険な目に遭わないようにするという意識は育ちつつあるが、自分の運転が原因で相手を危険な目に遭わせてしまうという意識は希薄である。そこで、本単元では、自転車事故の加害者側の側面から考えることで、自らの安全だけでなく周囲の安全にも気を配って自転車を運転しようとする意識を育てたい。

**４　主題に迫るための手だて**

　・実際に小学生が加害者となった事例を提示し、このような事故は自分にも起こり得るものであることを実感させる。

　・「被害者の痛み」と「加害者の責任の重さ」の両面から考えさせることで、自転車事故の重大性を実感させる。

　・「分かっているつもりでも、実際にできているか」という観点で普段の自分の自転車の乗り方を振り返らせることで、安全な自転車の乗り方をしようとする意識を高める。

**５　指導計画　（１時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ☆ねらい　○学習活動 | ◎安全教育の視点に立った留意点　■評価 |
| １  (本時) | ☆自転車乗車時には加害者になる危険性があることを知り、その責任の重さについて考える。  ☆自転車による加害事故の原因を考え、回避するためにはどうすればよいか考える。  ○映像を見て、危険を予測する。  ○事故の原因と回避するための方法を考える。 | ◎自転車の加害事故を自分の身にも起こり得ることであると認識させる。  ◎自分にとっても相手にとっても安全な自転車の乗り方をする必要性に気付かせる。  ■自転車の加害事故の実態・原因を踏まえ、安全な自転車の乗車のために必要なことを考えている。 |

**６　本時の展開 （１／１）**

**（１）ねらい**

　　・自転車乗車時には加害者になる危険性があることを知り、その責任の重さについて考える。

　　・自転車による加害事故の原因を考え、回避するためにはどうすればよいか考える。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点  ■評価（評価方法） |
| ○普段、自転車に乗っていて危険な思いをした経験を振り返る。  　・スピードを出しすぎて、人や壁にぶつかりそうになった。  　・交差点で車と接触しそうになった。  　・ブレーキが効かずに、怖い思いをした。  安全な自転車の乗り方について考えよう。  ○自転車事故の映像を見て、その後の展開を予想する。  　・スピードを出しすぎているから止まりきれず、家から出てきた人とぶつかる。  　・スピードを出したまま交差点に進入してしまい、車とぶつかる。  　・ブレーキが効かずに転んでしまう。  ○映像の続きを見て実際の事故の内容を確認し、なぜこのような事故が起きたのか考える。  　・夕暮れだったので急いでいて、一時停止を忘れてしまったから。  　・これくらいのスピードなら止まることができると、油断していたから。  　・普段から自転車の点検をしていなくて、ブレーキの効きが悪かったから。  ○自転車事故の加害者にならないために気を付けることを考え、ワークシートに書く。  　・自転車乗車時のルールを守る。  　・歩行者のことも考えて、自転車に乗る。  　・急いだり油断したりしないように、気持ちにゆとりをもって自転車に乗る。  　・傘を差したりイヤホンや携帯電話を使用したりしての運転など、注意力が散漫になってしまうような乗り方はしない。  ○考えを発表し、共通理解を図る。 | ◎ＤＶＤの映像をよく見て、具体的に起こり得る危険を予測させる。  ◎危険予測の際には、自分が相手にけがをさせる（加害者になる）可能性があることにも気付かせる。  資料「交通安全教育ＤＶＤ発展編」（ＪＡ共済）  ◎ＤＶＤを見た後に、実際の損害賠償額を提示し、事故により負う責任の重さを考えさせる。  ◎被害者や被害者家族の気持ちを考えさせたうえで、もし自分が加害者になったらという視点で考えさせる。  ◎「一時不停止」「前方不注意」「スピードの出しすぎ」「整備不良」等とともに、「焦り」「油断」「過信」など自分の気持ちの中にも事故の原因があることに気付かせる。  ■自転車の加害事故の実態・原因を踏まえ、安全な自転車の乗車のために必要なことを考えている。（ワークシート）  ◎スタントマンによる事故再現学習の内容を振り返ることで、歩行者のことを考えて自転車に乗ることの大切さについて、考えを深めさせる。  ◎「安全な自転車の乗り方」とは、自分にとっても相手にとっても安全な乗り方であることを確認する。  ◎学んだことを家族にも伝え、一緒に考える機会を設ける。 |